

令和4年度教育課程研究集会 中学校 保健体育

保健体育科の指導における 「主体的・対話的で深い学び」 の実現に向けた授業改善について

令和4年8月

奈良県教育委員会事務局

健康・安全教育課 学校体育係

指導主事 福井 栄作

②主体的・対話的で深い学びの実現の為に

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む
「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共
(仮称)」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を
構造的に示す

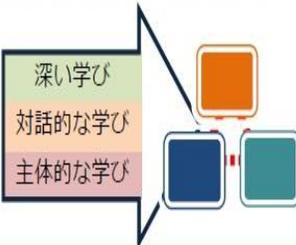
学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習
得など、新しい時代に求め
られる資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の
高い理解を図るための学習
過程の質的改善



①まず学習する子供の視点に立ち、教育課程全体や各教科の学びを通じて「**何ができるようになるか**」という観点から、育成を目指す資質・能力を整理する必要がある。

②その上で、整理された資質・能力を育成するために「**何を学ぶか**」という、必要な指導内容等を検討する。

③その内容「**どのように学ぶか**」という、子供たちの具体的な学びの姿を考えながら構成していく必要がある。

(2016年 中教審答申より)

★子供が「**どのように学ぶか**」の姿として示されたのが、「**主体的・対話的で深い学び**」である。

- ① 学ぶことに意欲や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

・各視点ともに、主語が「子供 = 学習者（生徒）」になっていることに注目！

学習者の視点と授業者の視点について

★『学習者の視点』と『授業者の視点』の往還が大切

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>学ぶことに興味や関心を持つ</u> ・自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ・見通しを持つ ・粘り強く取り組む ・自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を振り返る ・<u>具体物を提示して引きつける</u> ・子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する ・子供が自らめあてをつかむようにする ・学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる ・子供が自分の考えを持つようにする ・子供の思考を見守る ・子供の思考に即して授業展開を考える ・子供の考えを生かしてまとめる ・その日の学びを振り返る ・新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ・教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ・地域の人との対話を通じ、自己の考え方を広げ深める ・先哲の考え方を手掛かりに考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考を交流させる ・交流を通じて思考を広げる ・協働して問題解決する ・板書や発問で教師が子供の学びを引き出す
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ・知識を相互に関連付けてより深く理解する ・情報を精査して考えを形成する ・問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする） ・単元や各授業の目標を把握する ・ねらいを達成した子供の姿を具体化する ・教材の価値を把握する ・単元及び各時間の計画を立てる ・目標の達成状況を評価する

「○内の『授業者の視点』による改善を行った結果、○内の『学習者の視点』による生徒の学ぶ姿にどうつながったか」という点を大切に授業を改善していくことが必要！（逆も）

例)

・教師が具体物を提示して引きつける



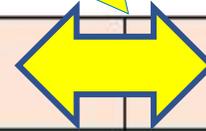
その結果…

・生徒が学ぶことに興味や関心をもったか？

※それぞれの学びについて、左の表の『学習者の視点』と『授業者の視点』を往還（往き来）しながら授業を改善していくことが重要である。

学習者の視点と授業者の視点について（拡大）

★往還しながら！



	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none">・学ぶことに興味や関心を持つ・自己のキャリア形成の方向性と関連付ける・見通しを持つ・粘り強く取り組む・自己の学習活動を振り返って次につなげる	<ul style="list-style-type: none">・既習事項を振り返る・具体物を提示して引きつける・子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する・子供が自らめあてをつかむようにする・学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる・子供が自分の考えを持つようにする・子供の思考を見守る・子供の思考に即して授業展開を考える・子供の考えを生かしてまとめる・その日の学びを振り返る・新たな学びに目を向けさせる

学習者の視点と授業者の視点について（拡大）

★往還しながら！

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none">・ 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める・ 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める・ 地域の人との対話を通じ、自己の考え方を広げ深める・ 先哲の考え方を手掛かりに考える	<ul style="list-style-type: none">・ 思考を交流させる・ 交流を通じて思考を広げる・ 協働して問題解決する・ 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
深い学び	<ul style="list-style-type: none">・ 各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる・ 知識を相互に関連付けてより深く理解する・ 情報を精査して考えを形成する・ 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	<ul style="list-style-type: none">・ 資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする）・ 単元や各授業の目標を把握する・ ねらいを達成した子供の姿を具体化する・ 教材の価値を把握する・ 単元及び各時間の計画を立てる・ 目標の達成状況を評価する

◆主体的・対話的で深い学びは、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく…



単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して！

【例えば…】

- ・ 学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして**自身の学びや変容を自覚する場面**をどこに設定するか
- ・ 対話によって自分の**考えなどを広げたり深めたりする場面**をどこに設定するか
- ・ 児童が**考える場面**と教師が**教える場面**をどのように組み立てるか

すなわち、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を考えることは**単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するか**のデザインを考えること！



しっかりと指導計画を立てた上で、授業を行うことが大切！！

単元、題材などをどのように構成するかデザインの考えるために？

指導と評価の計画の作成までの手順

手順1：内容の取扱いを踏まえ、年間指導計画に各単元を位置づけ、単元の目標を設定する。

手順2：指導事項をバランスよく把握する。（解説の〈例示〉等を参考）

手順3：内容のまとまりにおける全ての「単元の評価規準」を作成する。
（解説の〈例示〉文末を変更）

手順4：当該単元における「単元の評価規準」を設定する。
（手順3で作成したものの中から選んだりする。）

手順5：当該単元における具体的な指導内容の明確化を図る。

手順6：指導と評価の計画を作成する。

次のページにて

指導と評価の計画について

単元目標

指導と評価の計画【中学校 体育分野】		
領域	学年 ()	
単元目標	知識及び技能	
	思考力、判断力、表現力等	
	学びに向かう力、人間力等	

学習の流れ

学習の流れ	1 ページ									
-------	-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価規準

評価規準	評価機会									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
知識										
技能										
思考力、判断力、表現力等										
学びに向かう力、人間力等										

評価機会

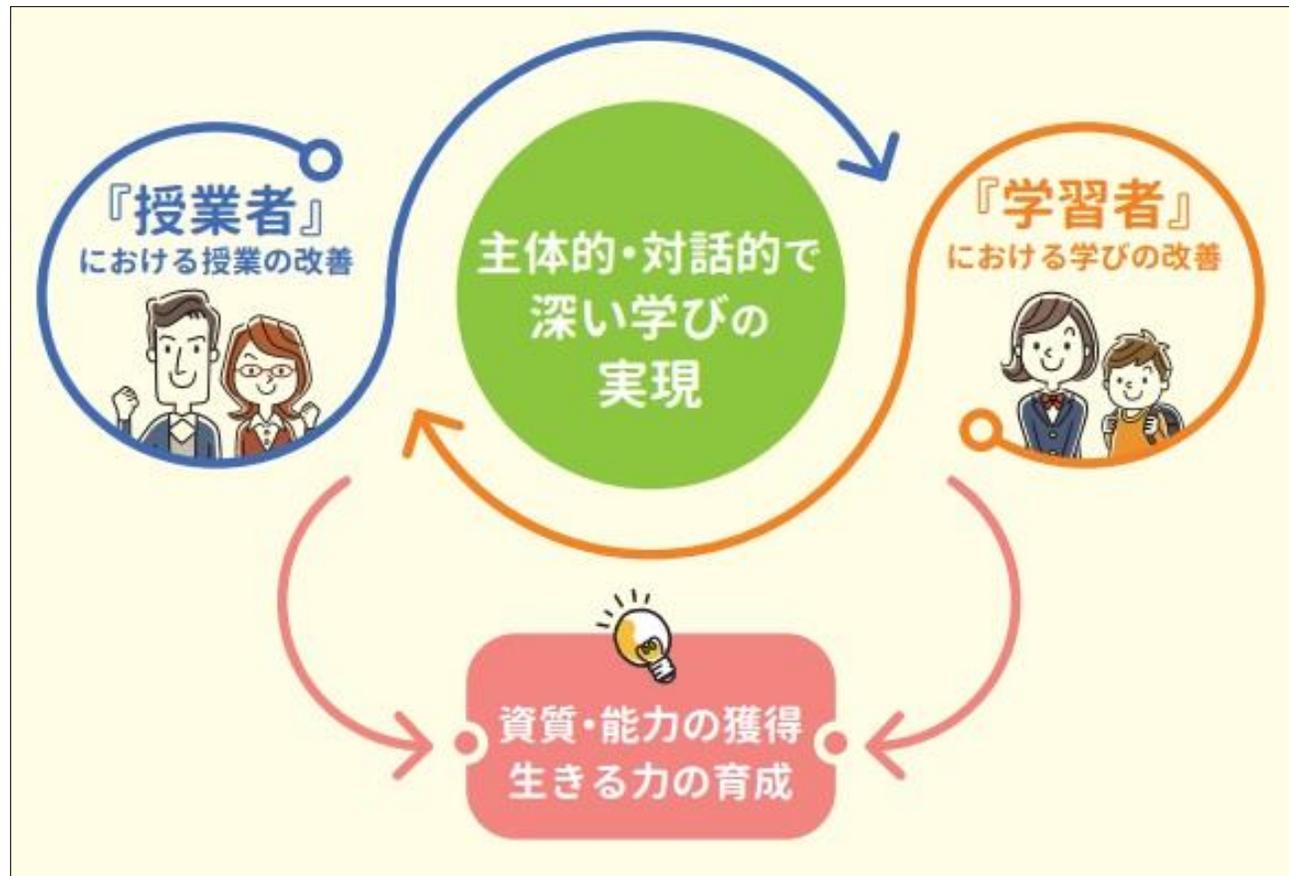
【指導と評価の計画】（配布資料を参照）

・ 下記資料にも掲載



『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』
発行 国立教育政策研究所

主体的・対話的で深い学びの実現は、バランスある資質・能力の実現につながり、さらには生きる力を育むものとなる。





【学習指導要領を理解するためのヒント】

この資料は、国立教育政策研究所プロジェクト研究「学校における教育課程編成の実証的研究」(平成29年度～令和3年度)の一端として、検討メモとして作成したものを公表するものです。

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について

主体的・対話的で深い学びとは

小学校学習指導要領解説総則編及び中学校学習指導要領解説総則編では、主体的・対話的で深い学びについて次のように解説している。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、以下の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されている。教科等の特質を踏まえ、具体的な学習内容や児童の状況等に応じて、これらの視点の具体的な内容を手掛かりに、質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的(アクティブ)に学び続けるようにすることが求められている。

- ① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

この文章は中央教育審議会答申(2016年12月)の引用であるが、これを理解するためのヒントを提示することが本検討メモの意図である。



「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」

国立教育政策研究所

終わり

ご静聴ありがとうございました。